

清水町 町名変更に関する住民説明会 要旨

令和8年2月6日（金）14：00～16：30
御影公民館 2階 講義室

出席者：26人

説明員：・町長、西田副町長、鈴木企画課長

事務局：佐藤企画課長補佐、青砥企画統計係長、有田企画統計係主事

1 開会

2 町長あいさつ

3 情報提供

別紙資料について説明（鈴木課長）

4 意見交換

○清水だけ町名に十勝がつくことに対して、他の管内自治体からの反対はないのか。

→（町長）

反対意見は現状聞いていない。

○町名変更の提案にあたっての経緯教えてほしい。誰の提案なのか。

→（町長）

町からの提案である。以前から町民の中でもそのような話はあったと聞いている。経緯としては、他の清水と名の付く地域とのまぎらわしきの解消やインターネットでの検索の優位性の確保のため、十勝のネームバリューを活かしていくための提案である。また、J AやJ R、高速道路のI C等と名前の統一化を図る目的もある。

○本日の資料は変更ありきの資料になっており、しない場合はどうなるのかがわからない。比較し判断したいため、そのあたりも示してほしい。

→（町長）

町名変更しなかった場合についてもまちづくりはできるが、あらゆる分野においてした方がいい結果になると思う。地域の入り口である町名を変えることで発信力を強化し、まずはまちを知ってもらい、選択肢の1つになるようにしていきたい。努力を結果につなげ、まちを未来に残すための取り組みである。

→（鈴木課長）しなかった場合の内容も今後お示ししたい。

○十勝を愛称ではなく正式につけるとの話だが、町民憲章や町歌の中に清水町がでてくるが、どうなるのか。変更するならそのあたりも統一化すべきではないか。

→（町長）

町民憲章は町名変更する場合は直していきたい。町歌や町旗についてはそのまま残したい。

○行政システム等の更新費用が約4,000万円から約1億円になったのはとても大きなことである。1億円の費用対効果は無いと感じている。過去の財政難等のことも含めどのように役場では考えているのか。

→（副町長）

1億円はとても大きな金額である。国で行政システムの統一化を図っている関係で、再度試算すると最大の数字としては大きく金額が増加した経過である。過去の状況もすべて内部で共有した上での判断である。将来のまちづくりを見据えたなかでの提案となっている。

○町長の就任以前より町名変更を検討していたのであれば、なぜ公約に掲げなかったのか。

→（町長）

清水町の課題は使える財源が少ないことだと思っている。公約の中にあつた財源をふるさと納税等で確保していく戦略の1つとして町名変更を考えていた。可能性の1つとして考えていたので、公約に記載はしていない。就任後、内部でも相談した上で公にしたものである。

○町名変更を公にする前に、役場内部での情報のすり合わせはあつたのか。スケジュール的に適切な情報共有やすり合わせは難しかったのではないかとと思っている。

→（町長）

一部の情報が先行しマスコミからでてしまったことはあるが、基本的には庁内会議等を通じて内部で情報共有を行い、意見をすり合わせた上で、町の意見として公表している。

○農協や商工会等からの賛同とはどのレベルのものか。組織決定した内容なのか。

→（町長）

会長や組合長等との話の中で前向きな返事はいただいているが、正式な組織決定かどうかは確認していない。

○説明資料の中で他の清水との差別化の話があったが、自治体名ではないものも多く誤解をうむのではないか。

→（町長）

自治体名ではないところでも、実際に他の清水とのまぎらわしさはたくさんあったので必要な情報としてだしている。

→（鈴木課長）

そのように解釈される場合もあるので、ご指摘いただいた内容をふまえ資料をブラッシュアップしていく。誘導的な資料と誤解されないよう配慮する。

○静岡県の清水と連携し、協力しながらいい方向にいくように何か考えてほしい。

→（町長）

一緒にやっていく大切さも充分理解している。いろいろなやり方を模索していくが、町名変更によるインターネット検索上での優位性は確保していきたい。

○今後、住民投票の結果で町名を変更する方向になっても、一定数いる反対の人の気持ちは変わらないと思う。町が2分化され一体感が無くなり、結果として町の魅力は減っていくと思う。

→（町長）

今後のまちを背負っていく子どもたちの意見も聞きながら決めていきたい。今後の進め方としても、皆様の意見を聞きながらより良い方法を模索していきたい。

○企業誘致に成功しても、外国人ばかり多くなるのが心配である。

→（町長）

外国人問題は充分理解している。なんでもかんでも受け入れるわけではなく、清水町のプラスになるような企業に声をかけていきたい。

○町名を変更しても検索上の優位性は変わらないと思う。

→（町長）

愛称ではなく、正式名称とすることでより優位性は上がると思っている。

○清親会の中で、町名変更について賛同を得たと説明があったが、どのような内容だったのか。

→（町長）

今後の清水町の可能性として町名変更の話をさせてもらった。良い悪いの協議をしたわけではない。

○町名は簡単に変えていいものではない。北海道には清水町は1つしかないのに、十勝をいれなくてもいいものではないのか。地名が紛らわしい自治体は十勝管内に他にもある。十勝じゃなくて北海道をPRしていけばいいものではないか。

→（町長）

他自治体は町名変更の必要性を現段階では感じていないと聞いている。北海道外の人に検索をしてもらう上では十勝は必要と感じている。清水町に人がくる、応援される基盤づくりが必要である。

○町民の暮らしに直接的に関わる大きなことのため、もっと時間をかけて進めてほしい。

→（町長）

町名変更に関しては、皆様の率直な思いを聞いた上で同じ方向に進んでいきたい。1つの可能性として皆様と一緒に考えていきたい。

○町名変更による企業誘致ではなく、町内企業の活性化の方が重要ではないか。

→（町長）

町内企業の活性化はとても重要である。外からの誘致ばかり行うわけではなく、内部の活性化の可能性も模索もあわせて行っていく。

○3月議会で条例案を提出するスケジュールとなっているがどうなのか。住民投票の条例案もすでにあるのであれば見せてほしい。

→（課長）

説明会を農村地区も含めさらに丁寧に行っていく。条例案は3月の提案を考えているが、説明会での意見等を踏まえ最終判断していく。

→（副町長）

最短のスケジュールでもまだ3ヶ月程度あるので、その中で必要な説明はいろいろなかたちで丁寧に行っていきたい。

○投票率のこと等も含め、十分な検討を行ってほしい。他自治体の事例でも、もっと住民が参画し十分に話し合いが行われている。まちづくり基本条例にも基づき、再度スケジュールの検討を行ってほしい。

→（鈴木課長）

ご意見として承らせていただき、検討する。

○庁内でプロジェクトチーム等をつくり十分な検討が行われているのか。

→（課長）

いろいろな政策決定の方法があるが、庁内会議で協議を行った上で皆様にお話しさせていただいている。提案をさせていただく上で、必要な情報を今後も内部で整理した上で皆様に共有させていただきたい。

○説明会の中で反対の意見が多い雰囲気があれば考えは取り下げるのか。

→（町長）

いろいろな町民の声を聞いていきたいので、説明会に参加していない住民の声も住民投票というかたちで聞いていきたい。

○ふるさと納税は町名変更ではなく成功自治体の取り組みを見習ってはどうか。

→（鈴木課長）

町名変更を1つのきっかけとしつつも、引き続き研究し努力していく。

5 閉会